



2022年12月期 第1四半期 決算説明資料

2022年5月12日
富士ソフト 株式会社



目次

2022年 12 月期 第 1 四半期 決算

P2. 連結業績ハイライト

P4. 主なグループ会社売上高・営業利益

P5. 連結セグメント別売上高・営業利益

P6. 連結損益計算書

P7. 連結貸借対照表

P8. 連結キャッシュ・フロー計算書

P9. 連結 S I 事業の受注高・受注残高

1. 連結業績ハイライト

売上高はシステム構築分野の好調により増収

◇売上高は業務系ではシステムインフラ構築案件が好調に推移し、組込系では機械制御系が堅調に推移したことなどにより、前同比104.5%の68,874百万円となりました。

営業利益はシステム構築分野などの増収により増益

◇営業利益は、一部グループ会社における販売代理店契約終了の影響や不採算案件があったものの、組込系開発やBPOサービスの増加により、前同比110.7%の5,089百万円となりました。

◇経常利益は、増収および為替差益により、前同比105.5%の5,446百万円となりました。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益は、前同比114.8%の3,337百万円となりました。

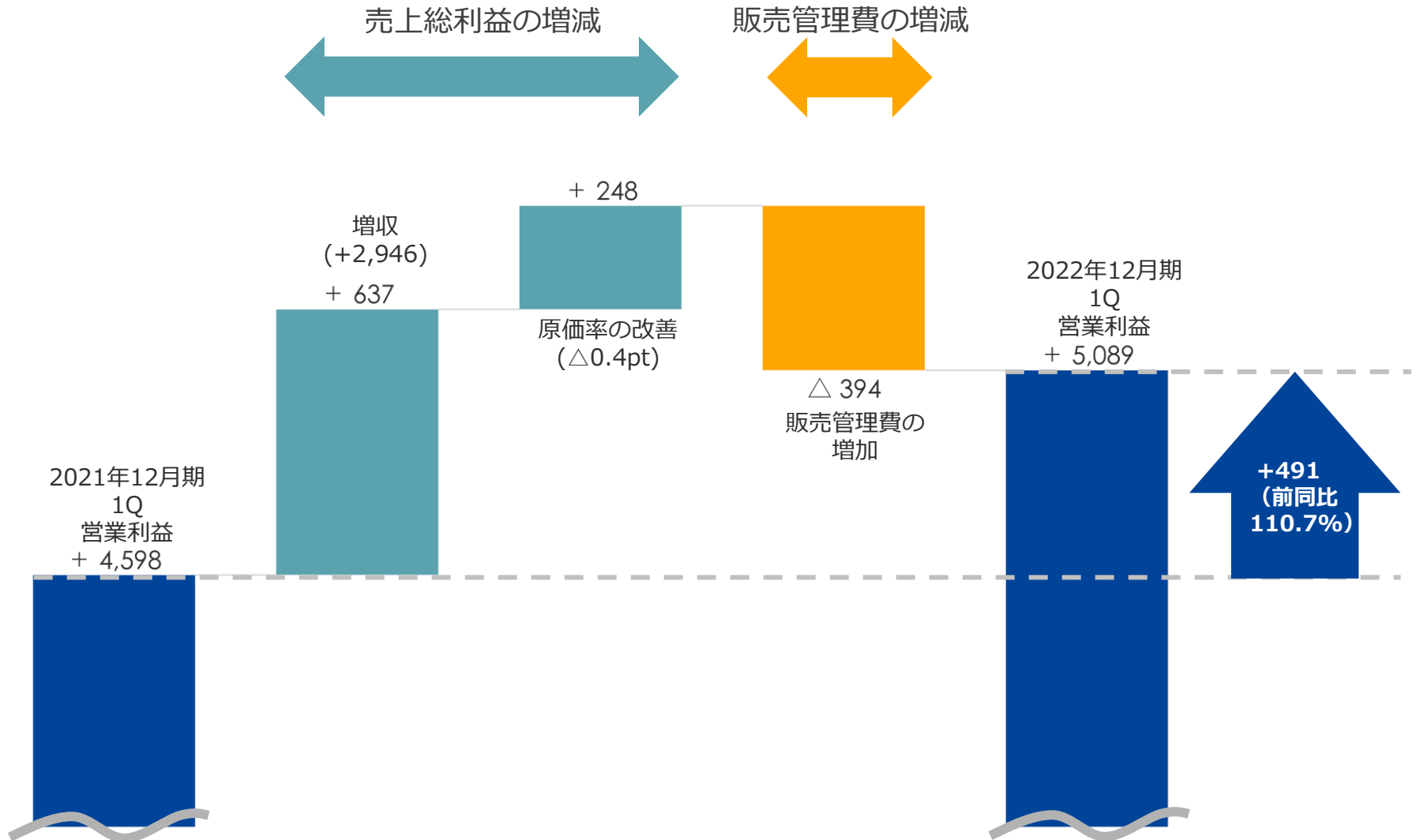
(単位：百万円)

	2021年12月期 1Q実績	2022年12月期 1Q実績	前同差	前同比	2022年12月期 1Q計画	計画比
売上高	65,928	68,874	+2,946	104.5%	66,700	103.3%
営業利益	4,598	5,089	+491	110.7%	4,200	121.2%
営業利益率	7.0%	7.4%			6.3%	
経常利益	5,162	5,446	+283	105.5%	4,800	113.5%
経常利益率	7.8%	7.9%			7.2%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,908	3,337	+429	114.8%	2,600	128.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	4.4%	4.8%			3.9%	

※当期より新収益認識基準を適用(前年値は旧基準)

連結営業利益の状況 (1Q)

単位：百万円



※当期より新収益認識基準を適用 (前年値は旧基準)



2.主なグループ会社売上高・営業利益

(単位:百万円)

	2022年 12月期	売上高	営業利益	
富士ソフト	1Q実績	47,913	3,053	売上高は、業務系ではシステムインフラ構築案件が好調に推移し、組込系では機械制御系が堅調に推移したことなどにより、増収となりました。 営業利益は、業務系に不採算案件があったものの、組込系開発の増収などにより、増益となりました。
	前同差	+1,735	+484	
	前同比	103.8%	118.9%	
サイバネットシステム	1Q実績	4,636	471	売上高は、2021年10月1日にSynopsys社との販売代理店契約を終了したことにより減収となりました。 営業利益は、減収により減益となりました。
	前同差	△ 524	△ 179	
	前同比	89.8%	72.4%	
ヴィンクス	1Q実績	7,919	843	売上高は、国内小売業におけるDXのニーズの高まりと、既存顧客への更なる深耕が奏功したことなどにより増収となりました。 営業利益は、増収により増益となりました。
	前同差	+405	+52	
	前同比	105.4%	106.6%	
サイバーコム	1Q実績	4,155	448	売上高は、ソフトウェア開発事業における通信系開発案件が好調に推移したことに加え、サービス事業では当社プロダクトによるコールセンター構築案件が好調に推移し増収となりました。 営業利益は、増収及び経費の減少等により増益となりました。
	前同差	+438	+45	
	前同比	111.8%	111.2%	
富士ソフト サービスビューロ	1Q実績	2,884	293	売上高は、BPOサービス、コールセンターサービスともに官公庁、地方自治体の新型コロナウイルス対策に関連する期間限定の外部委託需要を受けて好調に推移し、増収となりました。 営業利益は、増収および好採算となった案件が寄与し増益となりました。
	前同差	+735	+184	
	前同比	134.3%	268.8%	

※各社2022年1～3月の実績を記載しています。

※当期より新収益認識基準を適用(前年値は旧基準)



3.連結セグメント別売上高・営業利益

※当期より新収益認識基準を適用（前年値は旧基準）

（単位：百万円）

	2022年12月期売上高		前同差	前同比	2022年12月期営業利益		前同差	前同比
	1Q実績	構成比			1Q実績	営業利益率		
全社計	68,874	100.0%	+2,946	104.5%	5,089	7.4%	+491	110.7%
SI事業	64,926	94.3%	+2,082	103.3%	4,612	7.1%	+180	104.1%
システム構築	40,522	58.8%	+4,931	113.9%	3,041	7.5%	+236	108.4%
組込系／制御系ソフトウェア	18,235	26.5%	+1,771	110.8%	1,768	9.7%	+380	127.4%
業務系ソフトウェア	22,286	32.4%	+3,159	116.5%	1,272	5.7%	△ 143	89.8%
プロダクト・サービス	24,404	35.4%	△ 2,849	89.5%	1,571	6.4%	△ 56	96.5%
プロダクト・サービス	20,732	30.1%	△ 3,126	86.9%	1,309	6.3%	△ 30	97.7%
アウトソーシング	3,671	5.3%	+276	108.2%	262	7.2%	△ 25	91.2%
ファシリティ事業	706	1.0%	+74	111.8%	170	24.1%	+30	122.1%
その他事業	3,240	4.7%	+789	132.2%	307	9.5%	+280	1143.8%

セグメント別売上高のポイント

●組込系／制御系ソフトウェア

売上高は、機械制御系および自動車分野を中心に各分野とも好調に推移し、前同比110.8%となりました。

営業利益は、増収および前期から不採算案件が抑制傾向になったことにより前同比127.4%となりました。

●業務系ソフトウェア

売上高は、システムインフラ構築案件や金融業向け開発が好調に推移し、前同比116.5%となりました。

営業利益は、不採算案件の影響により前同比89.8%となりました。

●プロダクト・サービス

売上高は、前年にGIGAスクール関連の大型PC販売案件があったことにより、前同比86.9%となりました。

営業利益は、前同比97.7%となりました。

●アウトソーシング

売上高は、運用保守案件の増加により、前同比108.2%となりました。

営業利益は、データセンター移転に伴う一時支出により前同比91.2%となりました。



4.連結損益計算書

(単位：百万円)

損益計算書のポイント

① 売上原価率 (78.0%)

前年にGIGAスクール向け大型PC販売があり、当期は原価率の高い物販売上構成比減小などにより改善

② 販売費及び一般管理費 (+394百万円)

好調な受注環境への対応による人員増に伴う人件費の増加など

	2021年12月期	2022年12月期	前同差	前同比	2022年12月期	
	1Q実績	1Q実績			1Q累計計画	計画比
売上高	65,928	68,874	+2,946	104.5%	66,700	103.3%
売上原価	51,665	53,725	+2,060	104.0%	-	-
売上原価率	78.4%	78.0%	①			
売上総利益	14,262	15,148	+886	106.2%	-	-
売上総利益率	21.6%	22.0%				
販売費及び一般管理費	9,664	10,058	+394	② 104.1%	-	-
販売費率	14.7%	14.6%				
営業利益	4,598	5,089	+491	110.7%	4,200	121.2%
営業利益率	7.0%	7.4%			6.3%	
営業外収益	467	362	△ 105	77.5%	-	-
営業外費用	35	18	△ 16	51.9%	-	-
持分法による投資損益	131	12	△ 118	9.5%	-	-
経常利益	5,162	5,446	+283	105.5%	4,800	113.5%
経常利益率	7.8%	7.9%			7.2%	
特別利益	7	-	△ 7	-	-	-
特別損失	26	69	+43	263.7%	-	-
税金等調整前四半期純利益	5,143	5,376	+232	104.5%	-	-
法人税等合計	1,614	1,427	△ 187	88.4%	-	-
四半期純利益	3,529	3,949	+419	111.9%	-	-
非支配株主に帰属する四半期純利益	621	612	△ 9	98.5%	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,908	3,337	+429	114.8%	2,600	128.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益率	4.4%	4.8%			3.9%	

※当期より新収益認識基準を適用 (前年値は旧基準)

5.連結貸借対照表

	2021年12月期 期末	2022年12月期 1Q期末	前期末差
流動資産	111,128	112,307	+ 1,178
現金及び預金	40,351	34,945	△ 5,406
受取手形及び売掛金	57,352	60,535	+ 3,182
有価証券	5,000	7,000	+ 2,000
たな卸資産	4,449	4,279	△ 170
その他	3,974	5,547	+ 1,572
固定資産	117,786	119,885	+ 2,098
有形固定資産	90,344	92,347	+ 2,002
無形固定資産	4,547	4,391	△ 156
投資その他の資産	22,894	23,146	+ 251
資産合計	228,915	232,192	+ 3,276
流動負債	68,018	70,365	+ 2,347
支払手形及び買掛金	12,947	14,353	+ 1,405
短期借入金	19,462	21,373	+ 1,910
未払費用・賞与引当金	11,971	12,824	+ 853
未払法人税等	5,247	2,211	△ 3,035
工事損失引当金	266	229	△ 37
その他	18,122	19,372	+ 1,250
固定負債	17,928	17,471	△ 457
長期借入金	9,366	9,186	△ 179
その他	8,562	8,284	△ 277
負債合計	85,946	87,836	+ 1,890
純資産合計	142,968	144,355	+ 1,386
負債純資産合計	228,915	232,192	+ 3,276

貸借対照表のポイント

時節要因による変動はあるものの特記事項は無し

※当期より新収益認識基準を適用（前年値は旧基準）

6.連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2021年12月期 1Q実績	2022年12月期 1Q実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,245	△ 1,758	△ 5,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 32	△ 2,637	△ 2,604
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,807	174	△ 1,632
現金及び現金同等物に係る換算差額	327	366	
現金及び現金同等物の増減額	5,347	△ 3,854	
現金及び現金同等物の期首残高	37,450	40,876	
現金及び現金同等物の四半期末残高	42,798	37,021	

キャッシュ・フローのポイント

●営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は増収・増益に伴う入金増加があったものの、法人税等の支払が増加したことにより、1,758百万円の支出となりました。

なお、前期に大型P C販売案件の仕入債務があったことにより、前同差は5,004百万円の減少となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

当期はオフィススペース確保のための建設費用などにより、2,637百万円の支出となりました。

なお、前期に定期預金の払い戻しがあったことにより、前同差は2,604百万円の減少となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

当期は174百万円の収入となりました。

なお、前期に運転資金の借入があったこともあり、前同差は1,632百万円の減少となりました。



7.連結S I事業の受注高・受注残高

※当期より新収益認識基準を適用（前年値は旧基準）

（単位：百万円）

	2022年12月期 1Q実績							
	期首受注残高	前同比	受注高	前同比	売上高	前同比	期末受注残高	前同比
SI事業 合計	60,121	99.8%	69,573	108.3%	64,926	103.3%	64,767	105.0%※2
システム構築	38,273	107.0%	41,022	108.5%	40,522	113.9%	38,773	102.1%※3
組込系／制御系ソフトウェア	13,506	96.0%	18,325	108.3%	18,235	110.8%	13,596	93.5%※4
業務系ソフトウェア	24,766	114.2%	22,697	108.7%	22,286	116.5%	25,177	107.4%
プロダクト・サービス	21,847	89.2%	28,550	107.9%	24,404	89.5%	25,993	109.7%
プロダクト・サービス	※1 19,995	89.2%	24,577	106.9%	20,732	86.9%	23,839	110.7%
アウトソーシング	1,852	88.9%	3,973	114.4%	3,671	108.2%	2,154	99.5%

※1 新収益認識基準適用により、期首受注残高を変更しております。（+1,786百万円）

※2、※3 受注計上の社内運用ルールの見直しにより、一部案件の受注計上時期を変更いたしました。

従来の計上方法における、SI事業の期末受注残高は前同比106.8%、システム構築は前同比105.0%となります。

受注高・受注残高のポイント

●システム構築分野のポイント

・組込系/制御系ソフトウェア

受注は、機械制御系や社会インフラを中心に増加したことなどにより、前同比108.3%となりました。

また、期末受注残高は前同比93.5%となりました。

※4 従来の計上方法における期末受注残高は前同比101.1%となります。

・業務系ソフトウェア

受注は、金融業やシステムインフラ構築案件が増加したことにより、前同比108.7%となりました。

また、期末受注残高は前同比107.4%となりました。

●プロダクト・サービス分野のポイント

・プロダクト・サービス

受注は、他社ライセンスおよびハードウェア販売が増加したことにより、前同比106.9%となりました。

また、期末受注残高は前同比110.7%となりました。

・アウトソーシング

受注は、運用保守案件の増加したことにより、前同比114.4%となりました。

また、期末受注残高は前同比99.5%となりました。



四半期別業績推移（2020年～2022年1Q）

セグメント別四半期売上高（連結）

(百万円)

2020年

2021年

2022年

コロナ禍影響と業績推移

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

1Q

2Q

3Q

4Q

1Q

2Q

3Q

4Q

1Q

■ 組込系 ■ 業務系 ■ プロダクト

サービス

四半期別業績推移（2020年～2022年1Q）

セグメント別四半期受注高（連結）

(百万円)

2022年

2020年

2021年

コロナ禍影響と業績推移

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

1Q

2Q

3Q

4Q

1Q

2Q

3Q

4Q

1Q

■ 組込系 ■ 業務系 ■ プロダクト

サービス



※ 本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性があります。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、併せてご理解いただきますようお願い申し上げます。